

村の世帯・人口

昭和48年9月30日現在

総世帯数 2,416戸

人 口 11,222人

男 5,642人

女 5,580人

当月の人口移動

出生 22 死亡 0

転入 85 転出 31

婚姻 3 離婚 0



広報にはら

発行所

西原村役場

電話 (098995) 2401

2582・2583

印刷所

桑江印刷所

電話 (098995) 2365

一、村政情報

①原油流れる.....1

②さとうキビ価格値上

本村代表二十七名上京.....2

③ゴミ収集の委託始る.....2

④保育所、避難訓練.....3

⑤建築物は必ず確認申請を.....4

⑥村慰霊祭終る.....4

二、村民の広場

①老人スポーツ大会終る.....5

②坂小、西小運動会.....6

③村民体育大会終る.....6

④婦人学級開講.....8

⑤全国学級生大会に参加して.....8

三、告知板

①沖縄地区公民館長宿泊研修.....9

②二〇才の集い.....9

節水に協力しましょう。

村政情報

中城湾に原油流れる

去る十月二十九日、午前九時頃、南西石油からの原油流出が、同社のシーホースの巡回パトロールによって発見され、事故だとわかり新たな公害問題として村民は大きなショックを受けた。

南西石油当局の同事故説明によると、原油が流出した原油タンカー係留ブイは、海底パイプを経由して原油を陸揚げする海上施設で、事故を起こした個所は、このブイからさらに三〇〇メートルのびた二本ある浮上ホースの一本で、タンカーと接続されるバルブの部分。

この浮上ホースは原油を送る以外はバルブで止められ、海上に浮いているが、今度の事故はこのバルブが係留ブイと接触したショックでゆるみ、約一カ月前、送油した際、中に残っていた原油が流れ出たもの。

同事故によって、中城湾一帯がかなりの原油で汚染され、本村初め、中城村、与那原町、佐敷村、知念村の地域住民は大きなショックを受け

激しい怒りの声が各町村に高まって来ている。

事の重大さに、村当局はただちに十月三〇日に、大城助役をはじめ

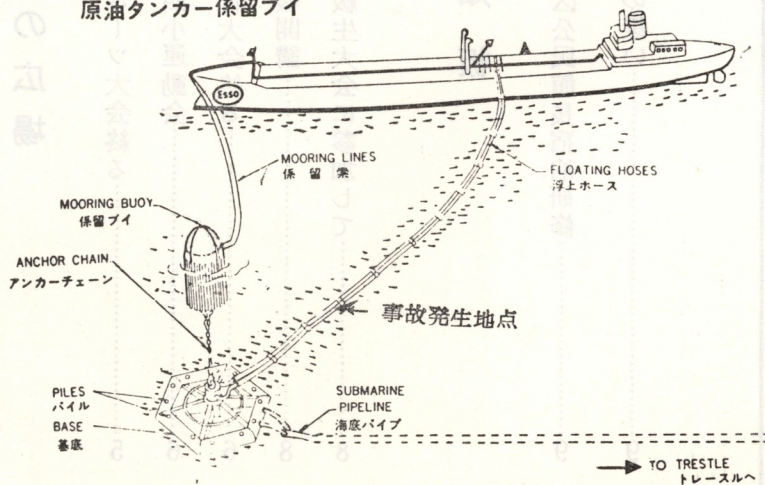
村議会、村農協、冲教組西原連合分会、及び西原村役場職労等代表者二〇余名からなる

原油流出事故に関する抗議

十月二十九日、午前九時頃、発見された貴南西石油株式会社の原油流出事故に関し、公害問題に直面させられた、すべての村民の名の下に、以下嚴重に抗議する。

今回の原油流出事故は、知念村、村民の訴えを背景とし、貴会社シーホースの巡回パトロールによって油もれが発見、確認され事故と判明したものである。貴会社は、この種の事故の未然防止の為に、毎日、午前中に巡回パトロールをしているとのことであるが、今回の事故発生は、

CRUDE OIL TANKER MOORING BUOY
原油タンカー係留ブイ



抗議団を結成してビリングス工場長に会見し、次のような厳しい抗議文を手渡し、今後、こうした公害問題が二度と起こらないよう強く要請した。

まさに貴会社の安全操業上、もしくは、公害対策上の不備、怠慢によるものとして、被害にさらされた我々村民は、激しい恐怖と怒りを感じる。

貴会社が本村に設立されて以来、今日に至るまで、わずか二カ年足らずで、我々村民は、すでに、パイプラインの不備による土壌汚染、臭気公害、海洋及び海岸の汚濁の危険等に何度となく、さらされて来た。そのたびに我々村民は、公害対策の万全性を強く要請してきた。

今回の原油流出事故に関連し、我々は、ちょっとしたミスによって、いかに甚大な被害が現出されるかを身をもって体験し、恐怖を新たにした。

いったん貴会社に事故が発生すれば、直接的に中城湾の汚濁はおろかその周辺町村、いわゆる本村を初め中城村、与那原町、佐敷村、知念、と広範にわたる公害を露呈するものであることを事実として知らされた。

今回の原油流出事故は、被害の大小の問題をこえて、我々の生活権、あるいは、生活環境に、計り知れぬ影響を与えるものであることを厳し

い態度で直視するものである。

汚染された海洋を、再び清らかにすることは不可能と言われている。

より以上に、本村の漁民の受ける被害というものは、生活基盤の破壊につながる、いつそう深刻な憂慮されるべき問題である。

今回の、明らかに貴会社の安全操

キビ代値上、二千名直訴団

本村から二七名派遣

食えるキビ代・一万三千円以上を訴える一千人の農民代表団が全県の問題として派遣されることになり、去る十月二十七日出発しました。

このキビ作農家の窮状を訴える一千人の直訴団に、本村から宮平村長はじめ、城間農協長、親泊議長、その他農家代表、総勢二十七名が参加しております。

代表団一行は、二十九日に東京晴海港に上陸し、すぐ、バス二〇台に分乗、東京平河町の都市センターでの集会を皮切りに六日間の東京行動を展開する予定です。

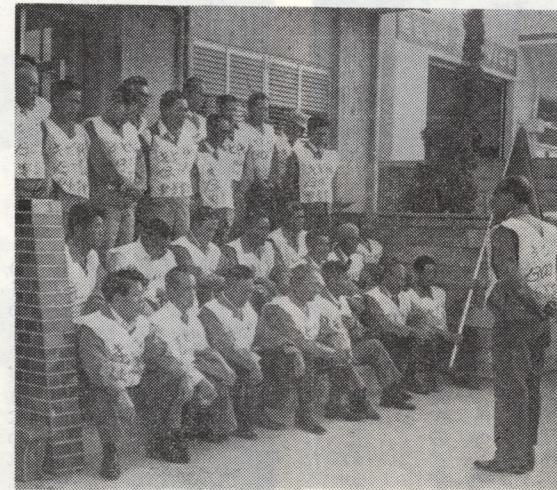
代表団は、総理官邸や農林省、大蔵省、沖縄開発庁など、関係省庁に直訴するとともに、神宮外苑日本青年館での東京大会、二回にわたる都

業上、及び公害対策上の不備、怠慢によって起こった原油流出事故に対し、生活権を蹂躪され、さらに、生活環境の破壊につながる恐怖と怒りをしいられたすべての村民の名の下に、今後、再び、同種事故のみならず、いかなる海洋汚染の問題も、そして、いかなる公害問題をも、現出

させないよう、貴会社が、操業の安全対策に万全の努力をばらうと共にさらに今度の事故によって起こった海洋、海岸での原油の散在についてすみやかに、回収、処理し、被害を受けた地域漁民に対しても、万全の補償をただちにこなうよう、強く抗議し要請する。

心部でのデモ行進、ビラ配布を通じて、「さとうキビは沖縄産業のクいのち」である

いことは明確な事実です。このままでは基幹産業としてのキビ作も壊滅のうき目に合うことは必至と言える。私たち村民も生活基盤の生命となるキビ代値上の直訴のなりゆきを注目し代表団の行動に心からの支援を送るようにならう。



さとうキビをトン当たり 13,000円に

決意に燃える

十一月一日からゴミ収集の委託始る

文化の発展と共に、日常生活も向上の一途をたどり、それにもない排出されるゴミの量も増加してきました。現在では、一日ハトン以上のゴミが排出されます。

村を住みよい環境にして行くことは、私たち村民すべての心がけがなければならぬことです。村とし

ては、多くなるゴミ処理をどうすべきかを真剣に考え、その結果、十一月一日から業者に委託し、ゴミ処理を行なうことになりました。

業者への委託でゴミ処理が行なわれることによって、従来不規則になりがちの収集が定期的に実施される訳で、環境衛生上大いに期待され

ます。

委託によって、各家庭とも、毎月一五〇円の料金を徴集されますが、村からも毎月一〇万円の補助を出すことになっております。

委託業者の収集に当っては、一般家庭と特別家庭とに分け、月四回収集にあたることになっております。

収集日に当たった家庭では、ゴミを袋づめてその日の朝、一定の場所に出しておくか、さもないければ前の晩にでも所定の場所に出しておけばいいことになっています。

指定日以外にゴミを所定の場所に

出すと他人に迷惑をかけますので、絶対にやらないようお願い致します。

ゴミを袋づめする時は次の事に気を付けて下さい。

▲燃えるゴミ↓黒い袋へ

▲燃えないゴミ↓ビニールか麻袋へ袋づめしたら口をしっかりとかくりましょう。

村民の中で、もしゴミを自己処理したいという人がありましたら燃えるものと、燃えないものを、はっきりと区別し、燃えるゴミは与那原町

字板良敷にある「与西清掃事務組合」の焼却炉で処理し、燃えないものは村が指定する場所で処理して下さい。

みだりに川や道端、空地にゴミ、その他を投棄すると厳しく罰則を適用します。

ゴミを自己処理する場合は、村衛生係から証明書の交付を受けて下さい。(証明料無料)
証明書がないとゴミの処理はできません。

◎ゴミの収集日程は次の通り

月曜日：幸地、棚原、徳佐田、森川、上原

火曜日：翁長、小波津、安室、桃園池田

水曜日：我謝、試験場地

木曜日：兼久、新部落、与那城

金曜日：呉屋、津花波、小橋川、内間、掛保久、嘉手苅

土曜日：小那覇

ざつと以上のようなすじ書きでその日の訓練が行なわれました。

園児たちは、楽しい夢のひと時が思わぬ火事騒動で、ぶち破られたことで、ワーワー泣き出す者やら、「火事だ、火事だ」と喜んでいるものや、テンヤ、ワンヤの大騒ぎ。

園児たちは寝まき姿のまま、はだしで飛び出させられたことに「いたい何ごとが起きたのか!!」といかにも困惑顔。

それでも、先生の、すばい指示にしたがって、外へと飛び出して、安全な場所に避難、とテキパキとした動きを園児たちは見せてくれました。

何はともあれ無事、安全な場所へ避難をすませ、消火がスムーズに行なったことで訓練は一応の成果をおさめました。

しかし、近くに電話がなく火事の連絡をするのに五、六分もかかり、消防車が到着するまでに一〇分以上もかかるようでは大変だ、電話の設置申請はしてもなかなか設置出来ず通信施設の改善が痛感された。

あゝ火事だ。

にしはら保育所避難訓練

空気が乾燥して火事が起こりやすいシーズンとなっておりますが、去る十月二十四日(水)午後二時半、にしはら保育所で、火事の際の避難訓練が行なわれました。

午後二時という、保育所では、ちょうど園児たちの昼寝の時間。火事は保育所の裏側で、原因不明で起ったと想定。

さっそく職員が近くの電話にかけ込んで西原村消防団へ通報。

保育その他の職員は、前もって決められた仕事分担を、冷静沈着に実行して、園児たちをすみやかに安全



「やっと消えたか、火事は怖いものだ」

な場所に避難させ、その後消防活動に協力の態勢をととのえる。

通報を受けた消防団は、ただちに出勤し、保育所職員の協力の下、適切な消火活動を行なう。

建築物は必ず確認申請を



私たちの周囲を見渡して下さい。そうです、およそ人間の生活しているところには、いたる所建築物があります。

考えようによっては、建築物そのものが社会生活の方向と特色を決めることさえ言えます。私たちの社会生活では、必ず何らかの秩序維持のため、とりきめがあります。

建築物の場合、建築をし、それを維持して行く上での条件なり、秩序が建築法規と言ええる訳です。すでに御承知の方も多いでしょうが、昨年の四月に、本村も全域、都市計画区域に指定され、それに伴い建築基準法が全面的に適用され今日に至っております。

それによって、床面積が十平方メートル（約三坪）以上の建築物は、新築、増築、改築等の場合、必ず確認申請を受けることになっております。また、建築物の移転、大規模な修繕、模様替等の場合とか、高さ二メートル以上の高さの擁壁を建築する場合も、すべて確認申請を受けることになっております。

村民の皆さんが、このことをよく御理解いただいて、違法建築物が一つもないよう、秩序ある村作りにみなで努力しましょう。

村慰霊祭終る

去る十月二十六日（金）、午後二時半から、にしはらの塔で、昭和四十八年度村慰霊祭が、おごそかに行なわれました。

祭式は、立正佼成会沖繩教会（長渡幸一教会長）を中心に行なわれました。

三分間の黙とうの後、仏式の御供養が立正佼成会沖繩教会の会員によって行なわれ、その後、宮平村長によって祭主焼香及び弔辞が行なわれました。焼香は、その他、二八団体の

代表者に
よって約
三〇分間
にわたっ
て行なわ
れ、午後
四時ごろ
無事、昭
和四十八
年度の村
慰霊祭は
終りまし
た。



永遠に平和を……

村民の広場

沖縄県中部地区

老人スポーツ大会終る

長寿県として一躍、全国的に注目をあびた我が県ですが、去る十月二十五日、コザ市宮陸上競技場に於て県で初の試みとされる老人スポーツ大会が開かれました。

その日は、朝から晴天にめぐまれ中部地区の十四カ市村から、選手役員だけでも二、〇〇〇名を越え、集った老人の方々は、一万名近い数字にのぼるという大規模のスポーツ大会となりました。

本村からは、玉那覇警会長を初め三〇〇余名の老人の方々が三台の大型バスに乗り込んで大会にのぞみました。

この大会の主催は、中部地区老人クラブ連合会、コザ市、浦添市、宜野湾市、具志川市、石川市及び中頭郡老人福祉センター運営協議会となっており、後援団体は、中部市村会、中部市村議会議長会、中部婦人連合会、中部医師会、中部地区婦人福祉友の会、中部市村教育委員会、等多数におよびました。

大会の主旨は、中部地区の老人がスポーツを通じて、健康の保持と生きがいと社会活動への参加意欲を高めるとともに、地域住民の老人に対する、深い理解と関心の高揚を図り合わせて老人スポーツの振興を図ることにあります。

大会は、まず十時半から盛大な開会式が、約三〇分間にわたって行なわれ、大会場のムードは、まさに青年団の競技会という若さにあふれ、なごやかさがいっぱいだった。

行進中に、ころんでケガをされる方も出るというハプニングもあって

久しぶりの行進に、みんないささか興奮気味の様子だった。

競技に入ると、いよいよ大会場は興奮のルツボと化し、笑いのウズの中で、各種競技がくりひろげられました。

競技は、いろいろと趣向がこられ、ソフトボール投げ、ラケット競走、けつ圧測定リレー、新婚旅行競走、ボール送り、ドリブルリレー、モグラ競走、等々があるかと思うと団体演技の「笑い福い節」「てんさぐの花」とか、「汗水節」などで、元氣な所を、踊りで表現する等、選手に選ばれた明治の青年方は、悪戦苦斗の連続で、テンヤ、ワンヤの大騒ぎ。それでもゲームの面白さや、踊りの楽しさに、さも満足そうだった。

大会を通じて、選手や参加者から万雷の拍手を受けたのは、昼食時にアトラクションとして演じられた、宜野湾市におすまいの、一〇二歳になられる上江洲安睦さんの空手であった。

コザ市老人クラブの方々による三味線の伴奏、かぎやで風にあわせて演ずる上江洲翁の空手演舞は、見

る者を深い感動にみちびき、一しゅん、あたりは水を打ったような静けさとなった。

翁の小柄な体はピリツとしまり、顔には深い年輪の後が……。そのゆつたりと、しかも鋭い手、足の動きには、「ウーン」「さすが」というためいきがもれ、演舞が終わった瞬間、大グラウンドは大きな拍手のウズでわきかえった。

一〇二歳にして、あの、しゃきつとした体と顔の輝き。そして鮮やかな空手の妙……。その場にいわせたすべての老人の方々が、若き日の自分たちの情熱のたぎりを実感し、大きな励ましを受けたにちがいがなかった。

大会に花をそえるという意味で中頭婦人連合会による、特別団体演技も行なわれ、めでたい節、御万人スルティ、安里屋ユンタ、与那国ぬマヤ小、等が色あざやかな、おそろいの衣装で披露され万雷の拍手をあびました。

本村の老人の方々は浦添市老人クラブとの組合せで、青色の旗の下、すべての競技に大奮闘し、その一日を楽しくすごしました。

大会は、最後の閉会式も、ほとん



「うまく行ってるかな？」

「行ってるよ、ウン」

「アレー キヤー」

どの選手、応援者の方々が参加し、その終始一貫した競技マナーは、多くの教訓を含んでいました。

初めての試みの老人スポーツ大会とあって、マスコミも大いに注目し

NHK等の録画も行なわれる、など成功のうちに午後三時ごろ幕をとじました。

同じ仲間だ 輪をつくれ

老人クラブは、みんなの広場

坂小、西小・運動会終る

去る十月二十一日(日)、坂田小

が盛大に行なわれました。

学校(新垣太敬校長)、と西原小学校(上原良雄校長)の両校の運動会

前日、かなりの雨が降り、競技がややぶまれておりましたが、その日

長い人生、たたかいぬいて
顔がほえむ、日焼けの顔が
みんな元気で、さあ生きぬこう

は曇り天気ながら、涼しいさわやかな風の下、元気いっぱい生徒たちは、日ごろの学習の発表を行ないました。

両校とも運動会に多数の父兄が応援にかきつけ、我が子の熱心な演技に拍手を送っておりました。



坂田小 整理体操



西原小 「ワーイ、それゆけ！」家族リレー

村民体育大会終る

秋晴れの下、去る十月十三日

(土)十四日(日)の両日にわたって西原中学校グラウンドにおいて、村民体育協会(平安恒政会長)主催の村民体育大会が開かれました。

今大会は、昨年総合優勝の幸地チームをはじめ十五チーム及びオプザバーとして高校チームが参加して十六チームで各種競技に覇を競いま

した。

大会運営上、十三日(土)に男子、女子のやり投げ、円盤投げが行なわれ、十四日の大会二日目は、その他の競技が行なわれました。

九時に開会式が行なわれ、その後延々七時間にわたって熱戦がくりひろげられ大会新が四種目に出るといふ大きな収穫がある実のり多い大会

となりました。

盛況裏に行なわれた大会の結果は次の通りです。

▲男子の部：優勝―我謝チーム、八

四点、準優勝―幸地チーム、七五

三位―伊保之浜チーム、六二点。

▲女子の部：優勝―我謝チーム、

五〇点、準優勝―小那覇チーム、四

五点、三位―幸地チーム、二六

点。

▲総合：優勝―我謝チーム、一三四

点、準優勝―幸地チーム、一〇一

点、三位―伊保之浜チーム、七六

種目別1位の結果

(40歳～49歳)

走高跳	上地美根子	1M15	伊保の浜
砲丸投	城間トミ子	7M21	翁長
円盤投	城間信子	20M38	我謝
ヤリ投	仲真久美子	19M15	小那覇
リレー種目			
400M 男	伊保の浜チーム	52,6	
年令別 400M	我謝チーム	54,9	
1,600M	上原チーム	4分12,4	
400M 女	我謝チーム	1分4,9	
800M 女	〃	2分19秒6	
婦人 400M	〃	1分3秒8	

100M	与那嶺 正 昌	16,0	幸 地
800M	比 嘉 五 郎	2分45秒1	〃
走高跳	安 里 光 雄	1M25	我 謝
砲丸投	大 城 豊 元	8M90	翁 長
(50歳以上)			
100M	与那城 三 郎	15,0	安 室
砲丸投	〃	9M64	〃
(女 子)			
100M	外 間 キ ク	大会タイ 14,5	幸 地
200M	外 間 キ ク	32,4	幸 地
走巾跳	平 良 広 美	3M68	我 謝

(一般男子)

種 目	1 位		
	氏 名	記 録	伊保の浜
100M	玉 城 善 一	12,3	〃
200M	〃	26,7	我 謝
400M	平 良 政 義	1分0,6	〃
800M	新 垣 良 信	2分19秒8	棚 原
1,800M	新宮里正春	4分56,8	〃
5,000M	新宮里正春	17分57秒1	兼 久
1 万M	比 嘉 善 徳	41分57	兼 久
20KM	比 嘉 正 治	1c37,,7,	棚 原
走巾跳	新玉城善則	6M04	伊保の浜
走高跳	玉 城 善 則	1 M68	〃
三段跳	新安里昌敏	12M06	〃
棒高跳	新 垣 徳 祐	3 M	崎 原
砲丸投	新 川 重 之	10M53	小那覇
円盤投	〃	27M73	〃
ヤリ投	大 城 孝 市	45M00	兼 久
(30歳～39歳)			
100M	外 間 久 一	12,8	兼 久
1,500M	小橋川 恵 一	5分43,2	我 謝
走巾跳	外 間 久 一	5M49	兼 久
円盤投	崎 原 裕 右	27M80	崎 原



力走!! さあ後一息だ。

(新=大会新記録)

婦人学級開校まじか！

本村教育委員会では、要望の声が多かった婦人学級を近々、開校する予定です。

婦人学級は、地域婦人の方々の要望によって、二、三カ所で行なう予定にしております。

同学級の開校の趣旨は、西原村内に居住する婦人の自主性を高め生活と産業の知識を身につけ、家庭人として、あるいは社会人としての資質

の向上を計り、明るい豊かな家庭をつくり、新しい村づくりに役立てることにあります。

活動の目標は、都市近郊農村における共稼ぎ婦人として、いかに家庭管理をよくし自己の教養を高めるか、となつていきます。

学習の内容は、案として次のようなものとなっております。

▲婦人の働く意義：①職場における

婦人の立場②職業人としての生き方
▲家庭管理：①健康と食生活②食品に対する知識③物価と消費生活④電化製品について⑤家庭薬品について⑥家族計画⑦共稼ぎと子どものしつけ⑧授乳と育児
▲社会的責任：①婦人と社会②ふるさとを知らう③村政を知らう、
▲趣味と教養：①手芸②料理③生花
近々教育委員会から、婦人学級開校についての詳しい広報活動がありますので、各々の婦人の方々が、ふって学級活動に参加されますよう御案内致します。

とを、身にしみて感じました。

まず、どんなに少ない参加者にも、引率の先生がついている。参加費用全予算が県負担である。大会に臨む前に講習会、研究会、オリエンテーション等を行ない資料を作成し問題点を具体化している。さらに、それらに使う予算が充分である。

これからすると、沖縄の様に中途半ばなやり方で県や市町村の社会教育への関心が低い状態では、後十年でも本土に追いつけないと思う。

ある県の先生は、私たちの参加意義、旅費等をたずねられ、自分のことの様に、その補助の少なさに憤慨なさり、私は、それに何と答えていいかわからず、こまってしまうました。

他の県では、県をはじめとして青年の教育に対して前向きであり、それが事実であることは、先生方の意見、生徒の態度から、初参加の私にも、手にとる程良くわかった。学級開設のための予算の大ききとか、今大会の派遣費の充分さなどにも、それは表われていました。宮崎県の場合は、今度の学級生大会に六名派遣し、それぞれに二万三千円の補助がありました。

今度の私たちの参加は、県の支援は少なく、県の社会教育に対する姿

棚原城間富子

北海道の大雪青年の家で、去る九月十四～十六日の二泊三日にわたって開かれた全国青年学級生大会に、沖縄から三名参加しました。行きは別々で、旭川で合同した私たちは、電車で三〇分程ゆられ、美幌からバスで、約四〇分、山奥の方に運ばれ大雪青年の家に到着しました。

体が緊張し、玄関一步から、もう研修が始まった様でした。職員の仕事は、テキパキとし、いかにも大目然で働くことが喜びこの上もない、ということ語っているようでした。

見たす限りの大自然……。島国沖縄からきた私にとって、あまりにも魅力的であり、一度でいいから、そんな中で生活してみたいという欲望にかられました。

卒業して、二、二十年、感動することを忘れていた私……。大雪のすいこまれるような深林とあたりをうめる神秘的な大自然は、言葉で語りたくないほどに、すばらしいもので、それゆえく北海道はどうですかの

質問に対し、くほんとにいいところですよとだけ、言葉少なに答えたのをよく覚えていた。

研修をふりかえってみると、第一日目は、オリエンテーション、第二日目は野外活動、三日目は、分科会と全体会議と変化に富んでいました。しかし、大会運営は、学級生の自主性が生かされることなく、すべて受動的に終ってしまつた。先生方が研修生をわずらわしきから解放してやりたい気持は、よくわかるが、せめて、五〇%だけでも、生徒の自主性を取り入れてほしかった。この大会は、あくまで青年指導者養成であり、多少の失敗はあるとしても、それが私たち学級生にとって、今後の踏み台になるのであれば、それは、すばらしい経験になったはずですよ。そこから学級活動においても、もっと、もっと、失敗を恐れない前向き姿勢が生まれてくるはずですよ。

全国の学級生、先生方と接し、沖縄の環境や、県、市町村の青年学級等に対する考え方が、全く異なるこ

勢の弱さ、社会教育の貧弱さがうかがわれました。

自衛隊などの、得体の知れない者に莫大な予算をかけ、これから社会作りをする青年育成の為の予算さえ、満足に出せない政府行政にも腹立たしさを覚え、矛盾を感じないで

告
知
板

昭和四八年度

中頭地区公民館長宿泊研修

来る十一月七日から八日（一泊二日）に国立沖縄青年の家で、昭和四十八年度中頭地区公民館長宿泊研修が開かれます。

これに、本村からも十二名の研修生が参加することになりました。

研修生は各字の事務担当者が主体となっております。

この研修会の趣旨は、地域住民の
情報センターとしての公民館活動を

はいられない。

研究を終え、ゆつくり考えなおしてみると、施設さえない場所にどうやって今後、青年学級活動は活動のやうて今後、青年学級活動は活動の場を求めたらいいのか、ある種の力への厚さを感じる。教宣活動にしても予算は少なく、青年の多くに知ら

せるには、口から口へ伝える原始的な方法しか残されていないのだろうか。本土との差は、ますます大きくなるばかりで、口先だけの社会教育である。大人は、「青年よ、どこへ行く」と言うものの、どこにも行かしてくれない…。

いて、等と豊富なものとなつております。

研修スケジュールを見ますと、オリエンテーション、分科討議、レクソーション、ゲーム、朝の集い、実践発表、野外活動、等々変化に富む、楽しい内容となっております。実りの多い研修が期待されます。

研修参加者は次の各氏です。

伊集盛光（伊保の浜）、与那嶺英弘（幸地）、安座間喜正（徳佐田）呉屋嘉真（呉屋）、玉城善一（掛保久）、外間俊夫（嘉手苧）、中山善正、（小那覇）与那城長助（安室）与那城太郎（桃原）、喜屋武光栄（池田）、玉那覇亀助（小波津）、新川美代子（西原教育委員会社教主事）。

からお待ちしております。

二〇歳の集いへ

どうぞ!!

成人式を来年、迎える若者たちを
集めて、色々と笑談する催しものが

來たる十一月四日、午時二時から村役場ホールで持たれることになりました。

村の教育委員会、選挙管理委員会、青年会が中心となつて、成人式を迎える際の、あるいは、成人となる際の、心がけ、あり方等をさぐる。

ばらんに語り合うという愉快な催し
ものです。

当日は、映画会なども交じていろいろと青年たちとの交流が予定されています。

成人式を迎える若者の皆さんが喜
び、いさんで参加されることを心か
ら御期待します。

次に詳しい日程を御紹介して、心

昭和四十八年十一月四日
午後二時

▲場所：西原村役場ホール

▲受付：午後一時三〇分～二時まで

▲予定：① 講演

② 映写会

③ 青年会との交流会